

クラウドによる「同時共同編集」は、社会の創造に不可欠な力を育みます



「未来通り」の名前の由来を調べよう

「総合的な学習の時間」では、4年生から「地域を知る」活動を行ってきています。

児童たちは、学校の近くにある「未来通り」という名前の由来について疑問を持ちました。子どもたちは地域の方からお話を聞いたり図書館や市役所に出かけたりして調査を行ってきました。5年生になり、これまでの調査の成果を地域に発信していこうと考えました。そこで、未来通りに関する「パンフレット」を作り配布することにしました。手書きの良さもちろんありますが、パンフレットは活字になることで綺麗で、本格的なものができるようになります。

写真を入れてのレイアウトの変更や文章を推敲していくためにはICTを活用することは大変有効です。また、小さな紙面に同時に文章を書き込んでいく、クラウドを利用した共同編集はICTだからできる学習方法です。

長野県ICT教育推進センターでも本年度の目標として「子どもたち全員が、クラウドによる『同時共同編集』ができる」を掲げています。

未来通りの正式な名前

未来通りは昔、場所ごとに三つの名前がありました。1つは「上新田7号線」です。これは上新田信号から狐島信号までです。次に「市道中央上新田線」です。これは狐島信号から中央通りまでです。3つ目は「古町上新田線」です。これは「中央通り」から「信州伊那アルプス街道」までです。この名前は、今でも使われています。



名前の由来

この未来通りには「夢や希望、未来」という素敵な意味が込められています。このことは「未来通りの会」の役員さん齊藤さんに教えていただきました。

年表 未来通り

昭和19年（1944年）〜昭和27年（1952年）のこの期間に、15町を合併して2年経たずに、中央・上新田線（平成6年（1994年））中央・上新田線（平成6年（1994年））の名称がつく。平成9年（1997年）に狐島街道本通り（平成9年（1997年））と、中央・上新田線（平成9年（1997年））と、五月から平成10年（1998年）〜平成11年（1999年）のこの期間に、1町を合併して、1町となる。平成11年（1999年）〜平成12年（2000年）のこの期間に、1町を合併して、1町となる。

未来通りとは？



昔はあまり整備されていない道で少し印象が悪道でした。そこで地域の人たちで、きれいにしていきました。未来通りの名前はいるいる候補を応募してもらって、178通ある中から選んだ名前です。

また、文章が中央揃えになっているので、そこも直した方がいいと思います。あと、年表についてなんですが、縦になっているので、横にしてほしいと年表グループ（ほくもそうですが）に依頼して、作り直しをするのもいいと思います。

↑グループで分担して共同編集を行っている時に、直接意見を伝えることもできますが、このようにメモ書きを貼り付けておくこともできます。

「歴史パンフレット」を共同制作しよう

学習をふり返り、調べたことを整理して新聞をつくろう



学習の流れ

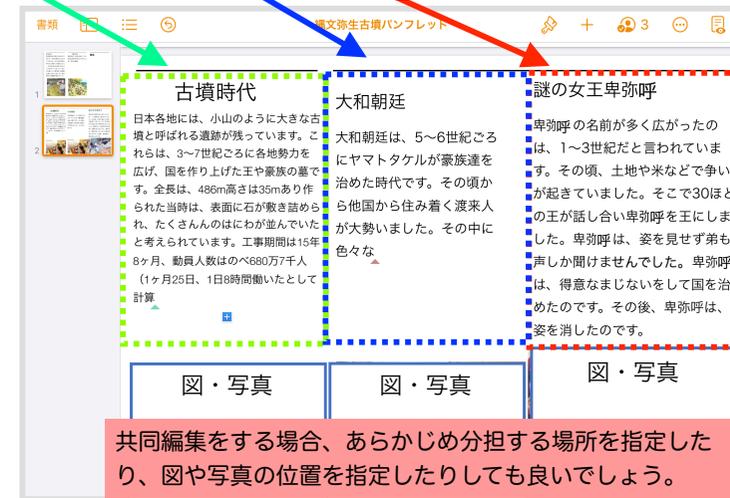
- 1 学習問題について、調べたことをノートに整理する。
- 2 ノートに整理したことをもとに学習問題についてわかったことを発表する。
- 3 学習したことをもとに、新聞にまとめる。

右下の児童の画面にはグループの作業の様子が見えています。お互いに意見交流しながら作業が進みます↓

パンフレットのレイアウトはPagesのテンプレートとして準備されています。これはとても使い勝手が良いようです。様々な教科で利用できそうです。↓



エレガントパンフレット



共同編集をする場合、あらかじめ分担する場所を指定したり、図や写真の位置を指定したりしても良いでしょう。

伊那東小学校 5年 中村琢磨先生と、長谷小学校 6年 吉田靖先生の実践をもとに推進センターで編集させていただきました。

長野県ICT教育推進センターが掲げる令和3年度の目標

子どもたち全員が、クラウドによる「同時共同編集」ができる

C 協働学習

C3 協働制作